

狐虎の威を借る

① 虎百獸たちを求めて之これを食らひ、狐こを得たり。ある時たは

② 狐曰はく、
「子敢へて我を食らふこと無かれ。
が
言うことにはあなたは
決して食べてはいけません

③天帝我をして百獸に長たらしむ。
——

④ 今子 あなた 私は
我を食らは 食べるの
ば、ならば
是れ このこと 一は
天帝の命に逆らふ 命令
逆らふ
なり。 こと
である

⑤ 子 あなたは
我を以つて 信用でき
ならず ない
と為さ思うの
ば、ならば

吾子の為に先行せん。私あなたため先に行きましよう。

⑥ 子のあなたが私、がの後に隨ひて観よ。 | ついてき見てください。

⑦百獸の我がを見て、敢へて走げざらん 獣たちどうして逃げないことがありましよう

⑧ 虎 は
以つて然りと為す。 その通りだと思った。

⑨ 故に遂に之と行く。 | だからそのままこれ一
行つた 緒に

(10) 獣 は
之を見て皆走ぐ。 これ 逃げた。

(11) 虎 獣の己を畏れて走ぐるを知
は
が
自分

(12) 以つて狐を畏ると為すなり。
は
が
自分

恐れてい
思つた
のである